

## 基本情報

所属	現代ビジネス 学部 地域経済学科	氏名	池田 景子 Ikeda Keiko
職名	教授	E-mail	k-ikeda@cb.kiu.ac.jp
		研究者ウェブサイト	

### ■ 学歴・取得学位

2004(平成16)年3月	奈良女子大学文学部言語文化学科卒業 学士(文学)
2006(平成18)年3月	奈良女子大学大学院人間文化研究科言語文化学専攻 博士前期課程修了 修士(文学)
2010(平成22)年3月	大阪大学大学院文学研究科英米文学専攻博士後期 課程修了 博士(文学)

### ■ 主な職歴

2009(平成21)年4月	奈良保育学院、非常勤講師(～2012年3月)
2010(平成22)年4月	同志社大学、非常勤講師(～2014年3月)
2010(平成22)年10月	大阪大学、非常勤講師(～2014年3月)
2011(平成23)年4月	奈良教育大学、非常勤講師(～2014年3月)
2014(平成26)年4月	九州国際大学、准教授(～2021年3月)
2016(平成28)年4月	九州工業大学、非常勤講師(～2017年9月)
2021(令和3)年4月	九州国際大学、教授(現在に至る)

## 教育活動

### ■ 主な担当授業科目

○ 学部：外国文学<英米文学 I>、イギリス文学、英米文学購読 B、英語 1B、英語 2B、英語(リーディング・ライティング) 1、英語(リーディング・ライティング) 2、Advanced TOEIC1、Advanced TOEIC 2
○ 大学院：なし

### ■ 教育上の特記事項

○ 教科書・教材： 入学前教育テキスト(2014・2015年度英語担当)作成
○ 教育活動： 入学前教育(英語)のテキスト解説(2015年1月31日、2016年1月30日)
○ 免許・資格： 高等学校教諭一種免許 外国語(英語) 高等学校教諭専修免許 外国語(英語)

## 研 究 活 動

### ■ 研究分野

研究分野	イギリス・ロマン派文学（主にメアリ・シェリー、P. B. シェリー）
主な研究テーマ	メアリ・シェリー及び P. B. シェリーにおける創造行為の特質
キーワード	ロマン派における想像力など

### ■ 主な著書・論文等

著書
○ なし
論文
(a) 学位論文
○ The Quest for the Abyssinian Source: The Romantic Myth of Hieroglyphic Representation in William Wordsworth and P. B. Shelley (博士論文), 大阪大学大学院, 124p, 2010年3月
(b) 学術論文
○ Shelley's "Mont Blanc": The Secret Strength's Image Written on Water (単著), <i>Osaka Literary Review</i> 第47号, pp. 19-32, 2008年12月【単独査読あり】
○ シェリーの「アラスター」に刻まれた<詩人>の自己認識の旅 (単著), 藤田治彦編『「芸術とコミュニケーションに関する実践研究」研究報告集』(フォーラム「環境と文学」に関わる研究報告書), pp. 236-39, 2009年3月【単独査読あり】
○ ワーズワスの「序曲」におけるスノードン山でのヴィジョン — 聴覚的イメージと視覚的イメージの転換 (単著), 『英米文学の可能性 — 玉井暉教授退職記念論文集』, 英宝社, pp. 297-304, 2010年3月【単独査読あり】
○ 創作者メアリ・シェリー — 『最後の人間』におけるメタ・フィクション性 (単著), 『イギリス・ロマン派研究』第35号, イギリス・ロマン派学会, pp. 65-78, 2011年3月【複数査読あり】
○ Mis-understanding the Past: The Decipherment of Hieroglyphs and Romantic Works, <i>POETICA: An International Journal of Linguistic-Literary Studies</i> 76 (単著), Yushodo: Tokyo, pp. 37-49, 2011 December【複数査読あり】
○ 『序曲』の改訂とワーズワスの幾何学 (単著), <i>Osaka Literary Review</i> 第51号, pp. 19-35, 2013年1月【単独査読あり】
○ Erasmus Darwin's Frequent Uses of the Term of Hieroglyphic in <i>The Temple of Nature</i> (単著), 『教養研究』第22巻, 第1号, 九州国際大学教養学会, pp. 79-95, 2015年7月. 【査読なし】
○ 『詩の弁護』における P. B. シェリーの鏡再考 — 動詞 reflect の意味を手掛かりに (単著), 『教養研究』第23巻, 第3号, 九州国際大学教養学会,

pp. 1-21, 2017年3月. 【査読なし】

- P. B. シェリーの『詩の弁護』におけるヒエログリフの比喻—エラズマス・ダーウィンから引き継いだ伝統, 『イギリス・ロマン派研究』第41号, イギリス・ロマン派学会, pp. 12-26, 2017年3月. 【複数査読あり】
- プリズムの多面鏡による光の乱反射—P. B. シェリーの『詩の弁護』を中心に, 『教養研究』第24巻第2号, 九州国際大学教養学会, pp. 11-33, 2017年12月. 【査読無し】
- Reflected Lights in P. B. Shelley's *Prometheus Unbound*, 『教養研究』第24巻第3号, 九州国際大学教養学会, pp. 1-16, 2018年2月. 【査読無し】
- P. B. シェリーの「西風に寄せるオード」とシビルの葉をつなぐもの—案内役としてのメアリ・シェリー, 『教養研究』第27巻第3号, 九州国際大学教養学会, pp. 1-23, 2021年3月. 【査読無し】

#### 学会発表

- Abyssの旅のモチーフと河口探検／極探検 — *Don Juan, Heaven and Earth, The Island* (単独), 2007年度日本バイロン協会談話会, 於: 大分県由布市, 2007年6月30日
- 水源と東方 — Shelleyの *Alastor* に刻まれた<詩人>の旅 (単独), 環境と文学 — <環境文学 (Eco-Literature)>の可能性とその社会的効用 — 第4回フォーラム, 於: 大阪大学, 2008年3月15日
- Bruce and Wordsworth (単独), The 37th Wordsworth Summer Conference, Grasmere, UK, 2008 August 3
- *The Prelude* 第8巻における羊飼いの像 — gloryとWordsworthの詩的精神 (単独), イギリス・ロマン派学会第35回全国大会, 於: 明星大学, 2009年10月4日
- メアリ・シェリーの『最後の人間』 — ヴァーニーの出奔と語りの入れ子式構造 (単独), 日本英文学会第82回大会, 於: 神戸大学, 2010年5月30日 [要旨: 『第82回大会 Proceedings』, 日本英文学会, pp. 80-82, 2010年9月.]
- 『序曲』の改訂とワーズワスの幾何学 (単独), 日本英文学会関西支部第5回大会, 於: 大阪市立大学, 2010年12月18日
- The Decipherment of Hieroglyphs in the Romantic Works: Byron and the Selleys (単独), Coleridge International Conference in Kobe (Coleridge, Romanticism, and the Orient: Cultural Negotiations), Kobe, 2011 July 17
- 神官によるヒエログリフ翻訳—P. B. Shelleyの “The Witch of Atlas” における諷刺 (単独), 日本英文学会第84回全国大会, 於: 専修大学, 2012年5月27日 [要旨: 『第84回大会 Proceedings』, 日本英文学会, pp. 47-48, 2012年9月]
- *The Temple of Nature* における Erasmus Darwin のヒエログリフ観—an universal language と hieroglyphic emblem (単独), 日本英文学会関西支部第7回大会, 於: 京都大学, 2012年12月22日 [要旨: 『第85回大会 Proceedings』, 日本英文学会, pp. 185-86, 2013年9月]
- P. B. Shelleyの *A Defence of Poetry* における鏡とヒエログリフ (単独),

- 2013 年度日本バイロン協会談話会，国際文化会館，2013 年 7 月 20 日
- 『詩の弁護』における P. B. シェリーの鏡の比喻再考—動詞 reflect の意味を手掛かりに (単独)，冬季イギリス・ロマン派文学研究会 (九州・山口地区)，於：福岡大学，2015 年 12 月 12 日
  - 『詩の弁護』と『鎖を解かれたプロメテウス』の序文における P. B. シェリーの鏡の比喻再考—2015 年学会報告，2016 年日本バイロン協会談話会，滋賀医科大学，2016 年 7 月 23 日。
  - P. B. Shelley の *Prometheus Unbound* における反射光，2017 年度日本バイロン協会談話会，ステーションホテル小倉 4F 会議室勝山，2017 年 7 月 22 日。
  - パーシーとメアリのシビルの葉—「西風に寄せるオード」と『最後の人間』，日本シェリー研究センター第 28 回大会，帝京大学，2019 年 12 月 7 日。[シンポジアムの全体タイトル：シェリーの<驚異の年>再考—メアリとともに織りなす生 (lives) と言の葉 (leaves)]

その他

- (書評) スティーブン・ブルーム「バイロンのナルシシズム再形成」，玉井暉編『批評理論を読む，テクストを読む』，大阪大学大学院文学研究科英米文学研究室，pp. 153-60，2007 年 3 月。
- (書評) Julian North. *The Domestication of Genius: Biography and the Romantic Poet*，『イギリス・ロマン派研究』第 36 号，イギリス・ロマン派学会，pp. 73-77，2012 年 3 月
- (書評) Nicholas Halmi. *The Genealogy of the Romantic Symbol*，『教養研究』第 21 巻，第 1・2 合併号，九州国際大学，pp. 53-62，2014 年 12 月。
- (書評) Fiona Stafford, *Reading Romantic Poetry*，『会報』第 19 号，日本バイロン協会，pp. 20-23，2015 年 11 月。
- (書評) Duncan Wu. *30 Great Myths about the Romantics*，「会報」第 20 号，日本バイロン協会，pp. 25-28，2016 年 11 月。
- (研究ノート) The Priests' Translating Hieroglyphics: The Satire in P. B. Shelley's "The Witch of Atlas," 『教養研究』第 25 巻第 1 号，九州国際大学教養学会，pp. 19-33，2018 年 7 月。
- (研究ノート) Reading the Story of P. B. Shelley's *Laon and Cythna*，『教養研究』第 25 巻第 2・3 合併号，九州国際大学教養学会，pp. 113-27，2019 年 3 月。
- (研究ノート) メアリ・シェリーの『マチルダ』と草稿原稿『夢幻の原』—研究ノートとして，『教養研究』第 29 巻第 3 号，九州国際大学教養学会，pp. 41-54，2023 年 3 月。
- (資料) 詩人と西風—P. B. シェリーの「西風に寄せるオード」，『教養研究』第 26 巻第 2 号，九州国際大学教養学会，pp. 85-96，2019 年 12 月。
- (資料) 灰と火花—P. B. シェリーの「お前は何者なのだ、おこがましくも、冒涇するのは？」，『教養研究』第 26 巻第 3 号，九州国際大学教養学会，pp. 75-84，2019 年 12 月。
- (資料) P. B. シェリーの死を悼む—メアリ・シェリーの「選んだひと」，『教養研究』第 27 巻第 1 号，九州国際大学教養学会，pp. 53-62，2020 年 7 月。
- (資料) P. B. シェリーの「マブ女王」翻訳—第 1 編から第 3 編まで，『教養研究』第 27 巻第 3 号，九州国際大学教養学会，pp. 37-68，2021 年 3 月。

- (資料) 1818年から1819年におけるP. B. シェリーの詩作品群, 『教養研究』第28巻第1号, 九州国際大学教養学会, pp. 27-41, 2021年7月.
- (資料) P. B. シェリーの「マブ女王」翻訳—第4編から第5編まで, 『教養研究』第28巻第2号, 九州国際大学教養学会, pp. 33-54, 2021年12月.
- (資料) メアリ・シェリーの短編小説「イタリアのことをあれこれ思い起せば」の翻訳, 『教養研究』第29巻第1号, 九州国際大学教養学会, pp. 21-41, 2022年7月.
- (資料) メアリ・シェリーの短編小説「現代イタリアの花嫁」の翻訳, 『教養研究』第29巻第2号, 九州国際大学教養学会, pp. 59-74, 2022年12月.

■ 大学就任以前の主な業務上の実績

	なし
--	----

■ 主な所属学会

日本英文学会 (2007年4月～現在に至る)、日本英文学会関西支部 (2006年12月～2014年3月)、イギリス・ロマン派学会 (2006年4月～現在に至る)、日本バイロン協会 (2007年4月～2022年3月)、国際バイロン学会 (2007年4月～2022年3月)、日本英文学会九州支部会員 (2014年4月～現在に至る)、日本シェリー研究センター会員 (2014年4月～現在に至る)、イギリス・ロマン派文学研究会 (九州・山口地区) (2014年4月～現在に至る)
---

■ 受賞等

	なし
--	----

■ 研究助成金による研究

○ なし。
-------

社会における活動等

- 外部委員：
  - 日本バイロン協会、バイロン出版物編集委員 (2011年7月～現在に至る)
  - 日本バイロン協会、理事 (『会報』編集担当) (2015年4月～2022年3月)
  - 日本バイロン協会、理事 (名簿管理担当) (2015年4月～2022年3月)
  - 日本シェリー研究センター、会計担当 (2022年4月～現在に至る)
  - 日本英文学会九州支部、評議員 (2022年4月～現在に至る)
  - イギリス・ロマン派学会、企画運営委員 (2023年4月～現在に至る)

大学運営活動等

- 研究活動助成委員 (2014年4月～2015年3月)
- 教務委員 (2015年4月～2016年3月)
- エクステンションセンター委員 (2016年4月～2017年3月)
- 研究活動助成委員 (2017年4月～2021年3月)

- 基礎教育センター委員（2020年4月～2022年3月）
- 学部教務委員（2021年4月～2022年3月）
- 教養学会編集委員（2021年4月～現在に至る）
- 社会文化研究所運営委員（2023年4月～現在に至る）